

平成30年 6 月13日(水)

【北陸地域創生フォーラム～産業観光の進展に向けて～】

北陸地域連携プラットフォームからの提言・提案

説明 : 北陸財務局

それでは、「産業観光の進展に向けて」、北陸地域連携プラットフォームが関係機関へのヒアリング等をもとに、提言・提案させていただきます。

この北陸地域連携プラットフォームは、北陸3県の有識者の皆様をメンバーとして、北陸地域にとって重要と思われる事柄について議論してまいりました。今回のテーマ「産業観光」については、事務局での関係機関へのヒアリング等の取組を踏まえ、2回にわたり産業観光の進展に向けて御議論いただきました。

本日は、これまでの議論を踏まえた「3つの提言・提案」について、事務局を代表して、北陸財務局から御説明させていただきます。

それでは、1ページの「目次」を御覧ください。

時間も限られておりますので、この時間は、中央・囲みにあります「産業観光の進展に向けた提言・提案」を中心に報告させていただきたいと思っておりますので、テーマの狙いや期待される効果については説明を割愛させていただきます。

それでは、5ページを御覧ください。

提言としては大きく3点ございます。

「広域連携の強化」、「2次交通の充実」、「ふるさと教育への活用」でございます。

それぞれに具体的な提案を挙げておりまして、詳細は次ページ以降となります。ここでは、まず各提言の概要を御説明いたします。

提言1は、「広域連携の強化」でございます。

提案の(1)では、「点を増す」としまして、産業観光の取組拠点を増やすため、PR資料の作成を提案します。そして、(2)では、「点を線に」する広域ルートを開発し、また、(3)では、「面」で呼び込むための一つとして、複数工場を一斉公開する「オープンファクトリー」の実施を提案します。さらに(4)、(5)

では、それを支え・仕掛ける態勢として「見学予約の一括窓口の開設」や「広域観光アプリの開発」を提案いたします。こうした提案に取り組むには、地域・業界を跨ぐ広域的な対応や、それを繋ぐ組織が求められるものと考えております。

提言2では、2次交通の充実策として、「カーシェアリングの活用」を提案いたします。これにより、個人旅行の拡大などが期待されます。

提言3は、「ふるさと教育への活用」でございます。産業観光を観て、体験したことを「夏休みの宿題」とすることによって、より多くの子供たちが地域企業・産業の良さに気づき、シビックプライドの醸成にも繋がるものと期待しております。

それでは、次のページから、提案の内容を御説明いたします。

6ページを御覧ください。

提案の1つ目は、未取組先への勧誘ツールを整備し、取組拠点を増やすという提案でございます。地公体や商工会議所を中心に、取組先を増やす努力をされている中で、多くの方から伺いましたのは、「産業観光のメリットを伝えにくい」、「懸念・不安を払拭するための説明が難しい」という声でした。

そこで、メリットを感じられている企業の声を紹介したいと思います。右側には、当局が実際に訪問した企業声を掲載しております。「視察の受入が新たな受注に繋がった」、「採用面で効果を実感されている」、「ガイド経験による社員のスキルアップを実感されている」などの声がございました。

次のページを御覧ください。

ここでは、取組にあたっての懸念や不安に対する代表的な声とそれに対する工夫・克服事例について整理いたしました。

左側の1番上は、『受付やガイド』への対応が心配との声でございますが、実施企業に伺いますと、「①事前予約制」、「②人数制限」、「③繁忙期には遠慮」といった対応をされておりまして、「身構えることなく、産業観光に参加して欲しい」といった趣旨で取り上げたものでございます。

このほかにも、いわば懸念の材料とそれに対する工夫につきまして、生の声として整理いたしました。

次のページを御覧ください。

PR資料の最後は、能作様の事例と全国の事例を紹介しております。ここまでの、6ページから8ページまでの3枚が「未取組先への勧誘ツールの整備」、いわゆるPR資料として提案するものでございます。

次のページを御覧ください。

提案の2つ目は、「産業観光取組先を含む広域ルートの開発」でございます。左上は、大手旅行会社による実際の商品でございますが、右側では、この商品から浮かぶ「9つのキーワード」を挙げさせて頂きました。⑧の「泊まる」につきましても、その例示の記載はございませんが、早朝や夜にしかできない見学・体験を組み込むことで、必然的に「宿泊・滞在」に繋がることとなります。

なお、こうしたキーワードを満たすには、やはり⑨として「広域化」が必要だろうということでございます。旅行会社の声を御紹介しますと、「自治体による企画案件は、域内で旅行を完結させるものがほとんどで、商品化は厳しい。旅行者は訪問先を「北陸」として捉えており、複数の自治体で連携すべきである」とのことございました。

加えて、左下でございますが、さらに有機的なコラボがあれば、ベストだと考えておまして、例えば、酒器の製造体験後に、その酒器でお酒を試飲し、宿で味わうといった展開でございます。

以上のポイントを、右下で整理しますと、【Ⅰ】観光資源の複合化(①～⑧)及び広域化(⑨)が求められ、そして【Ⅱ】「ターゲット」を定めた「ストーリー展開」が不可欠であり、さらに、【Ⅲ】有機的なコラボを産み出す視点(⑩)も必要と考えております。

次のページを御覧ください。

提案の3つ目は、「オープンファクトリーの実施」でございます。オープンファクトリーは、期間限定で地域内の工場を一斉開放する取組でございますが、下段の事例紹介のうち、「銅器団地」の取組で特徴的な声を1つ御紹介します。

右側の④番でございますが、「参加企業間で相互理解が進み、新たな取引が生まれた」とあります。団地企業内でも、「隣の企業が何をしているのか、詳しく知らない」ケースもあるとのことでした。オープンファクトリーを通じて得られた「思わぬメリット」との声がございました。11ページ、12ページは、北陸地域でのオープンファクトリーの取組を紹介しておりますが、後ほど、パネリ

ストの新山代表から「RENEW（リニュー）」の取組についてのお話もごさいますので、ここでの説明は割愛させていただきます。

それでは、13ページを御覧ください。

提案の4つ目は、「見学予約の一括窓口の開設」でございます。ほとんどの企業では、見学を事前予約制としておりますが、その予約を一括して受付ける窓口を設けてはいかがかというものでございます。見学者には利便性の向上、企業側には負担軽減というメリットがございます。実際に、小矢部市商工会では「おやべ型産業観光」と称しまして、予約の一括窓口を担っております。具体的には、見学希望者が、商工会のホームページで企業を確認し、画面上で選択すれば、商工会が企業側と時間調整をしてくれる、といったスキームでございます。

右側下の（3）に参加企業の声に掲載しておりますが、①として「見学希望者からの問合せや予約の事務負担が無い」といった声のほか、②商工会を介すことによりまして、見学希望を断りやすいといった声もございました。県単位となりますと、こうした一括窓口業務を行うには態勢整備（ヒト、カネ、システム、参加企業の募集等）に相応の時間がかかるものと思われませんが、まずは、商工会議所などの単位でこうした対応を検討されては如何かと考えております。

14ページを御覧ください。

提案の5つ目は、「広域観光アプリの開発・運用」でございます。

先ほどの旅行商品のページで、「旅行者は訪問先を北陸として捉えている」との声を御紹介しました。広域的な誘客が求められるとともに、当然、観光客には公共交通機関の情報も必要です。また、多様化する価値観の中にあって、受入側による一方的なモデルルートのみでは、旅行者ニーズは満たされません。

こうした3つの視点をコンセプトとして「広域観光アプリの開発・運用」を提案するものでございます。目的地、時間、希望ジャンルを入力するだけで、「私の観光ルート」が提案されるというものでございます。このアプリは情報量が少ないと、旅行者ニーズを満たせませんので、ぜひ地域間で連携し取り組んでいただければと思います。

次のページを御覧ください。

提言の2つ目は、「2次交通の充実」でございます。「着地後の移動をどうす

るか」ということをごさいますして、旅行者の足としては、鉄道、バス、タクシーなどいわゆる公共交通機関があり、これらの充実が求められているところをごさいますすが、ここでは「カーシェアリングの活用」を提案します。

欧米を中心に「シェアリングエコノミー」が広がっており、日本でもこうした動きが認知されつつありますが、宿泊施設を拠点としたカーシェアリングによって、産業観光地を含む観光地への誘客を目指すものでごさいます。この仕組では、宿泊施設もカーシェアリングを活用することによって、業務用車両を手放すことも可能になります。なお、北陸以外の地域ではこうした取組が広がっておりますが、北陸3県ではまだ取組事例が無いようでごさいます。

カーシェアリングの特徴として、「短時間、6時間程度であれば、レンタカーよりもコストメリットが大きい」とも伺っておりますので、想定シーンとしては、鉄道利用客による、チェックイン後やチェックアウト後の近距離観光などが考えられます。

なお、こうしたカーシェアリングの可能性につきまして、駐車場に余裕のないホテルからは「導入スペースが無い」との声を伺いましたが、加賀地方のある宿泊施設に伺ったところ、例えば、東尋坊や永平寺への観光客の利用、加賀温泉駅までの送迎利用、チェックイン後のコンビニへの足利用、などにも期待できるとして、「導入に向けて検討したい」といった声も聞かれております。

16ページを御覧ください。

「カーシェアリング」のもう1つの特徴として、GPSの搭載がごさいます。こうした特徴を活かしまして、利用者の行動履歴をデータ化し、いわゆる「観光マーケティングのビッグデータ」として旅行業者などに販売できないか、というものでごさいます。また、GPS機能を活用し、2次交通の充実により恩恵を受ける観光地など、この図では「イ」、「ロ」から協賛金を募ります。これらを原資として、「ハ」、BtoB企業の受入態勢を整備することができないかと考えております。実現には、いくつかの課題があることも認識しておりますが、BtoB企業でも産業観光に参加しやすくなる仕組として、提案させていただきます。

次のページを御覧ください。

地方創生の観点から「小学生への夏休みの宿題化」を提案します。目的とし

ては、「地域・産業への誇りや愛着の増進を促し、地域への定着、人材の採用・後継者の育成に繋げる」といったことをございます。小学生を対象とすることによって、その親も巻き込むと言いますか、同伴することにもなろうかと思ひます。

右下を御覧いただきますと、福井県の嶺南地域の一地公体では、この夏休み期間中に「地域の魅力発見ツアー」が行われる予定と伺っております。なお、ここに記載はございませんが、「夏休みの宿題化」については、既に事務局から、ある地公体と関係団体に提案してありまして、この夏休みの採用に向けて取り組まれており、その実現に期待しております。

以上が、「プラットフォームからの提言・提案」でございます。

最後に、これまでの提言・提案について、次のページでまとめておりますので、御覧下さい。

以上、北陸地域連携プラットフォームから、3つの提言と具体的な対応として7つの提案をいたしました。

下の図で簡単に振り返りたいと思ひます。

【提言1】は、「広域連携の強化」でございました。産業観光の取組先を増やしながら、地域、組織、官民、業態・業種の枠を超えた連携を進め、面の拡大を図ることによって、交流人口の拡大、そして、北陸地域の観光振興、産業振興を目指します。新幹線開業によりマーケットが大きく変化し、また、旅行者の価値観やニーズが多様化するいまこそ、広域的な連携が求められるのではないのでしょうか。

【提言2】は、「2次交通の充実」として、カーシェアリングの活用を提案しました。宿泊施設に設けることで、旅行客の選択肢が増えますし、ビッグデータを活かした取組も期待できます。

【提言3】は、「ふるさと教育への活用」でございます。具体的には、小学生の夏休みの宿題に産業観光を組み込むことにより、人材育成のほか、児童に止まらず父兄など多くの住民が地域の良さを認識する機会となり、シビックプライドの醸成に繋がります。

「今後の展開」としましては、産業観光は、地域と人、地域と地域、人と歴史を繋ぐほか、地域の産業を守り、育て、未来へ繋ぐ役割も担い得るものであ

り、その点においては産業観光に取り組む意義、期待される効果は非常に大きいものと考えられます。

産業観光を進展させていくためには、数多くの課題や問題をクリアーしていく必要がございますが、今回のプラットフォームからの提言・提案が少しでも地域の産業観光の進展にお役に立ち、そして、地域間の連携に繋がるきっかけになればと思っております。

北陸地域連携プラットフォームにおいては、今後とも産業観光の進展に向けた取組を深化させつつ、関係先への提案や地域間の連携に向けた取組を支援し、北陸地域の観光・産業振興、地方創生に貢献してまいりたいと考えております。

御清聴ありがとうございました。

以上